

秋期闘争勝利に向けて 市労連、決起集会を開催し 意思統一を図る

市労連は、10月9日に中央区文化センターで決起集会を開催し、当面する闘争課題について意思統一を図りました。また、来賓として久元市長が挨拶し、各単組代表による職場課題や要求を訴え、団結ガンバローで集会を終えました。

主催者を代表して北川執行委員長は、「9月18日に神戸市人事委員会勧告が出されました。物価高が続いています。ここ数年は、人材確保のこともあり、若年層を中心に賃上げがされていますが、物価高で苦しんでいるのは、すべての世代であり、高齢層も含めてバランスのとれた賃上げをめざしていきます。地域手当

について、昨年行われた給与制度のアップデートで神戸市に勤務する国家公務員の地域手当は12%から8%に減額となりました。私たちは、交渉の中で粘り強く主張した結果、今年度は12%を現状維持することができました。来年度も現状維持を求めて交渉に臨んでいきたいと考えています。さて、市長選挙について市労



神戸市労連ニュース

No. 19 [25. 10. 9]



知しております。同時に新規採用をしっかりと獲得しなければいけない。同じ仕事をしては対応できない。やらなくてよい仕事はやめる、仕事そのものを減らしていく、やり方を変える。こうした改革が必要で、その上で優秀な人材を確保する。勤務条件は改善し

ていきたい。職員の給与水準はできるだけ上げていかなければなりません。地域手当の引下げは適切ではない。優秀な人材を確保するために、令和7年度は12%維持させていただいた。令和8年度については、労使交渉でしっかり主張していただいて、受け止めて対応していきたい。神戸市のまちの発展、神戸経済の活性化についてしっかり取り組んでいきたい」と決意を述べました。

続いて、久元市長からは、「神戸が元気であるためには、市役所が元気でなければならぬ。市役所が元気であるためには、職員の皆さんが元気でなければいけない。その思いは全く変わっていません。市民のために汗を流すことができる環境をつくっていくことが大きな仕事だと考えてきました。一番大きな課題は人手不足だ。人手が足りていないことは承

連は、8月12日の執行委員会で久元市長の推薦を決定しました。久元市長は、賃金・労働条件については話し合いで解決することを基本に、職員が仕事をやりやすくするために尽力してきました。こうした基本姿勢を評価しています。市労連の団結で、当面する賃金確定闘争や市長選挙闘争を勝利しよう」と挨拶しました。

その後、各単組代表から、市民病院の厳しい現状、技能労務職や公共交通の人材確保、水道事業の危機管理体制の強化、学校現場の課題、教育の充実・待遇改善など職場課題や要求について訴えました。

集会を締めくくりにあたり、小原副執行委員長の団結ガンバローで闘争勝利に向けて決意を固めました。